大豆情報 No. 3

令和５年(2023 年) ８月４日
東近江農業農村振興事務所農産普及課
(東近江農業普及指導センター)

うね間かん水を実施しましょう！

７月中旬から降雨が少なく高温の日が続いており、管内でも既に水不足で葉が裏返り白く見えるほ場が見受けられます。大豆は出芽期から子実肥大期まで水を必要とし、特に開花期～登熟期の間に多くの水を必要とします。

今後も高温・少雨の傾向が続くと予想されており、水不足になると落花や落莢による減収に繋がります。水不足が懸念される場合は、減収を防ぐためにも速やかに「うね間かん水」を行いましょう！

うね間かん水のポイント

- 水不足により葉が裏返り白く見える場合や、開花期以降に７日以上雨が降っていない場合は「うね間かん水」を行いましょう。

※水位の目安は、中耕培土栽培ではうね間、狭畦密播栽培では明渠の肩を超す程度です。

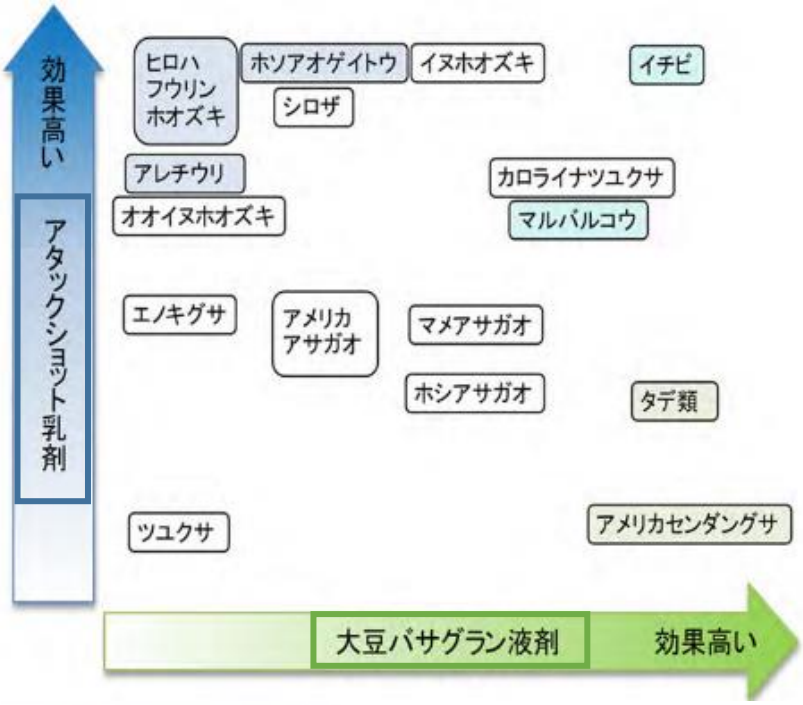
- ほ場全体に水が行き渡ったら、直ちに水尻の板をはずして、速やかに排水し、湿害や雑草の発生に繋がらないようにしましょう。
- 送水制限などで十分な用水の確保が難しい場合は、ほ場を分けながら数日かけて徐々に入水を行いましょう！

葉が裏返っている様子

うね間かん水の様子

難防除雑草の発生に注意！

- 近年、大豆ほ場で難防除雑草であるホウズキ類やアサガオ類の発生が多く見られ、収穫時の作業の難航や汚染粒の発生など支障をきたしています。大豆の生育期に使用できる除草剤は複数ありますが、ホウズキ類やアサガオ類の防除には「アタックショット乳剤」が効果的です。
- 雑草の種類に応じた薬剤を選定し、防除を実施しましょう！



ヒロハフウリンホウズキ
（ホウズキ類）

マルバルコウ
（アサガオ類）

<u>イネ科雑草が多い場合</u>
ポルトフロアブルを雑草生育期（イネ科雑草の 3～10 葉期）（収穫 30 日前まで）に散布しましょう。

農薬使用時には、必ず容器のラベルを確認し、登録内容にしたがって使用してください。